



『マタハラ』 について考えよう！

高知県は、共働き率全国1位と、働く女性がたくさんいます。ある調査では、高知県の口紅の販売数が全国1位であり、仕事を持つ女性が多いことと関係があるといわれています。

一方、高知県でも多くの働く女性が妊娠・出産・育児を経験していますが、そんな女性が受けるハラスメント（嫌がらせ）が問題となっています。

平成27年11月には、厚生労働省のマタハラに関する実態調査で、正社員の5人に1人、派遣社員の2人に1人がマタハラ被害を受けたという結果が報道されました。



マタハラ（マタニティハラスメント）

働く女性が妊娠・出産・育児などをきっかけに職場で精神的・肉体的な嫌がらせを受けたり、妊娠・出産・育児を理由とした解雇や雇止め、自主退職の強要で不利益を被ったりするなどの不当な扱いを意味する言葉。

《4つのマタハラ類型》

価値観押し付け型

「旦那さんの収入があるからいいじゃない」
「女性は、子どものために子育てに専念した方がいいよ」

性別役割分担意識による考えを相手に押し付ける

いじめ型

「休めていいよね」「やる気あるの？」
「迷惑なんだけど」

妊娠や出産等で休んだ分の業務をカバーさせられる同僚の怒りの矛先が、会社ではなく個人に向いてしまう

悪意なし

労働の強制

悪意あり

労働からの排除

個人型
組織型

パワハラ型

「夕方帰る正社員はいらない」
「時短勤務なんて許さない」

妊娠や育児を理由に休んだり早く帰ったりすることを許さない職場風土

追い出し型

「残業できないと他の人に迷惑でしょ」
「子どもができたならやめてもらうよ」

一番分かりやすいマタハラ。ほとんどの女性が泣き寝入りする

長時間労働

※参考：NPO 法人マタハラ Net 公式 HP (<http://www.mataharanet.org/>)

皆さんは、こんな言葉を聞いたことがありますか？

「妊娠は病気じゃない」

それは、どういう場面で使われていましたか？

マタハラの場面では、

妊娠は病気じゃないのに…

●しんどいしんどいって怠けすぎじゃないのか

●すぐに休もうとして、そのカバーは周りがしているんだよ

と、こんな風にマイナスな意味を込めて使われることがあります。

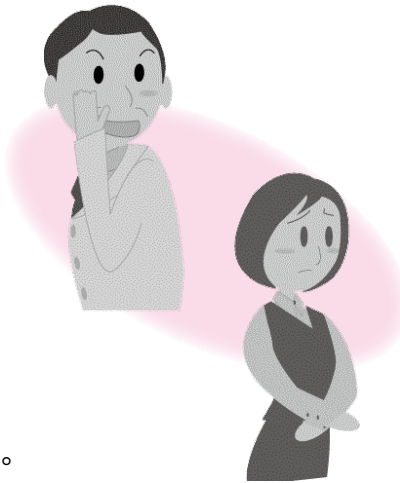
けれど、

●妊娠による不調は、病気と違って薬で治せるものではないからしんどいね

●妊娠は病気とは違うけれど、身体の見えないところで色々な変化が起こっているから、普段以上に身体を大切にしないとイケないよ

という、妊婦さんへの優しさや思いやりが込められた言葉としても使われます。

皆さんなら、どちらの意味で使いたいですか？



マタハラは被害女性だけの問題でしょうか？

いつか自分も、いつか自分の姉妹も、自分の妻も、自分の娘も、マタハラ被害に遭うかもしれません。

そのような被害を防ぐために、女性も男性も自分のこととして「マタハラ」について考える必要があるのではないのでしょうか？



いっしょに
考えよう！

■問い合わせ
生涯学習課生涯学習人権係
☎ 880・6569

南国市の男女共同参画社会に向けた取り組みを、市ホームページに掲載しています。
トップページから「分類で探す」↓
「人権」↓「男女共同参画社会の実現を目指して」をクリックしてください。

「4つのマタハラ類型」を見ても分かるように、職場での不満のはけ口や、支援制度の不備によるひずみが、妊婦や子育て世代へと集中する傾向があるようです。
マタハラを失くすためには、マタハラ対策だけでなく、働く全ての人が働き方を見直すとともに、職場全体で、ワーク・ライフ・バランスを実現できる支援体制の整備や、子育て世代をはじめとする誰もが働きやすい職場風土づくりに取り組む必要があるといえます。
次代を担う新しい命や子どもたちを、大切に育んでいける社会を目指して、南国市も市民の皆さんと一緒に取り組んでいきます。